

5-1 露筋補修(一般分のエポキシ樹脂モルタル充填補修)

打放しコンクリートの鉄筋腐食に伴う被覆コンクリートの剥離欠損部分の補修

施工手順

施工方法

補修範囲の確認

- ・打音及び目視検査で鉄筋の露出や被覆コンクリートの浮き範囲を確認して、補修範囲を確定しマーキングする。

カッター切

- ・研り範囲の周囲に5mm以上の切込みを入れる。
(躯体と断面修復材の取合い部分にフェザータッチを残さない様に研部端部に切込みを入れる:L>0.5mm)

研り

- ・研りは、潜在する鉄筋の錆部分が完全に露出するまで研り出す。
- ・脆弱部分の除去は、錆ケレンが可能な範囲まで研込む。

鉄筋の錆ケレン

- ・鉄筋の腐食部分は、錆ケレン用具で除去する。
(ワイヤーブラシ、ディスクサンダー、プラスト)

アルカリ付与
シーラー塗付

- ・研り部分の躯体にシーラー材を刷毛で均一に塗布し含浸させる。(ボンドVPシーラ 塗付量:0.2kg/m²)
(鉄筋防錆・反応性骨材の膨張抑制等の特記がある場合は、亜硝酸リチウム系ボンドVP40 シーラー材を使用する。)
- ※特記無き場合は省略

鉄筋防錆プライマー
塗付

- ・下地面及び鉄筋部分へ防錆プライマーを刷毛で均一に塗布する。(塗付量:0.3kg/m²)
(ボンドユニエポ補修用プライマー)

断面復旧材の混合

- ・断面修復材:ボンドKモルタルを規定配合比で混合する。
断面修復材の混合は、可使時間内に使用可能量を計量し混合する。
(配合:主剤:2kg+硬化剤1kg)

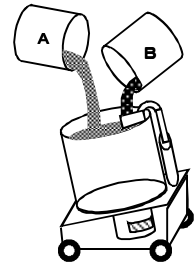
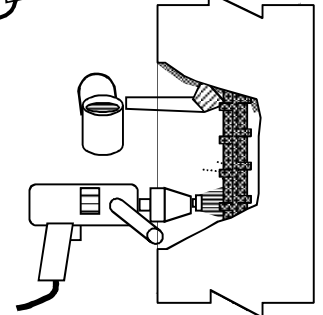
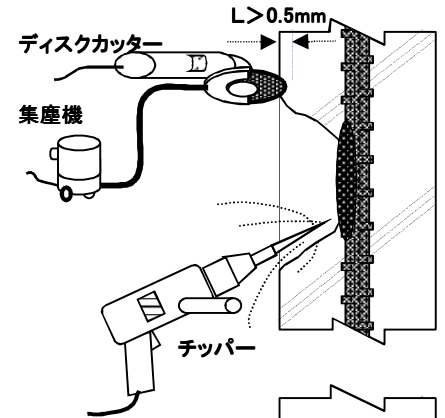
断面復旧

- ・断面修復材を左官ゴテで、約20mmの付送りを繰り返し欠損部分へ充填し表面を平滑に仕上げる。
断面修復材は、可使時間内に使用可能量を計量し混合する。
断面修復材:ボンドKモルタル
(配合:主剤2kg+硬化剤1kg)

仕上げ

- 断面修復したKモルタル表面をエポキシシンナーで湿し、補修部分の表面を押さえ平滑に仕上げる。
※断面修復材が硬化するまで衝撃、振動を与えない(夏季:半日、冬季:1日程度を目安とする)

完了



専用混合混合機

